町長コラム
Mayor Column　Vol.13

筆 おもむくままに

穴水町長　吉村 光輝

「カンボジア王国」

３年前に仕事でカンボジアを訪れる機会がありました。滞在は２日間のみでしたが、視察や会議を終えて、帰りの飛行機の時間まで３時間ほど空いたので、現地の担当者が「どこか行きたいところはあるか」と言うので、プノンペン市内のトゥルースレン博物館に連れて行ってもらいました。この博物館はカンボジア現代史の悲劇を象徴する収容所跡で、機会があれば訪れたいと思っていた場所です。

カンボジアの現代史は１９７０年台から始まった内戦の歴史です。クーデターで政権を掌握した共産主義のクメール・ルージュ政権下で行われた虐殺と粛正、特にポル・ポト派が実権を握り、79年に崩壊するまでの４年足らずで２百万人を超える人々が、虐殺や飢餓で無くなったと言われています。当時のカンボジアの人口の３割近くがポル・ポト政権下で亡くなった事になり、反体制の思想を持つ人や教師や科学者、弁護士、企業家、宗教家等の知識人層が次々と収容所に送られ、虐殺されたので、カンボジアの近代化は数十年遅れたと言われています。その大量虐殺の舞台となったのが当時の高校校舎を利用したトゥルースレン収容所です。今は博物館となり虐殺や拷問、処刑の様子を、実際に使用した道具や部屋、収容所で亡くなった人の写真、埋められていた犠牲者の遺骨等、膨大な量の展示を見ることができます。私が行った時も多くの外国人観光客が訪れていました。皆一様に無言で見学している様子が印象的で、人が人に対しこれほどまでに残酷になれるものかと感じました。

帰り際に現地の担当者から聞いたことですが、この博物館にはカンボジア人は行かないそうです。確かに私が行った時も外国人ばかりでした。カンボジア人にとってこれは歴史ではなく、ついこの前の出来事で、記憶も生々しいということかもしれません。カンボジア内戦の停戦合意が成立したのが、89年。そのあと日本は92年に国連による停戦監視を目的に自衛隊を派遣、いわゆるＰＫＯ派遣をすることになります。当時、日本国内で派遣を巡る議論が激しく交わされたことを記憶している方も多いと思います。歴史は繋がっているということでしょうか。

現在のカンボジアは平均年齢が30歳台と、とても若い国です。人によると「高度経済成長期の日本と似ていますよ」と。若輩ものの私にはイメージがつかないですが、３年前も活気溢れる印象でした。またゆっくり訪れたいと国ではあります。状況が許せばですが。